

# (社)全日本鍼灸学会

## 平成 24 年度 第 3 回理事会 会議録要旨

### I. 開催の日時及び場所

日 時：平成 24 年 11 月 18 日(日) 午後 3 時 00 分～午後 5 時 00 分  
場 所：日本鍼灸会館 2 階 講堂 (東京都豊島区南大塚 3-44-14)

### II. 議事の経過要領および結果

司 会：事務局長 福村 昭  
挨 拶：会長 後藤 修司  
議 長：会長 後藤 修司

#### 【報告事項】

1. 各部事業中間報告 (平成 24 年 8 月～平成 24 年 11 月)
  - 1) 事務局 福村事務局長  
資料に基づき説明があった。
  - 2) 学術部 福田学術副部長  
資料に基づき説明があった。
  - 3) 研究部 山下研究部長  
資料に基づき説明があった。
  - 4) 編集部 坂口編集部長  
資料に基づき説明があった。
  - 5) 組織部 安藤組織部長  
資料に基づき説明があった。
  - 6) 国際部 福村事務局長  
資料に基づき説明があった。
  - 7) 広報部 清水広報部長  
資料に基づき説明があった。
2. 平成 24 年度中間決算報告 小川副会長  
資料に基づき説明があった。また、妹尾監事からは 11 月 17 日 (土) に学会監事が会計監査を行った結果、収支決算書通り適切に処理されていることを確認したとの報告があった。
3. JLOM 関連委員会報告 東郷 JLOM 関連委員会委員長  
資料に基づき説明があった。
4. 認定委員会報告 鳥谷部認定事務局長  
資料に基づき説明があった。
5. 第 61 回学術大会報告 津田中部支部長  
資料に基づき説明があった。また、福田学術副部長から、抄録の発送が遅れたことなど今年度の反省を踏まえて作成された準備工程表について説明があり、今後活用することとなった。
6. 第 62 回学術大会準備報告 福田学術副部長  
資料に基づき説明があった。
7. 第 63 回学術大会準備報告 福田学術副部長  
資料に基づき説明があった。

#### 【審議事項】

1. 平成 25 年度各部事業計画案・予算案の検討

#### 1)事務局

福村事務局長

資料に基づき説明があった。来年度諸会議日程のうち、支部運営委員会を平成25年6月7日(金)、平成25年11月17日(日)、平成26年3月23日(日)の3回開催し、認定委員会を平成25年8月25日(日)、平成26年2月23日(日)の2回開催することとなった。また、鍼灸学術団体協議会を平成25年6月7日もしくは8日に開催する。予算案について、公益法人化に伴う諸規程の見直しを行う必要があるため、公益法人移行諸費として30万円計上し、定款等改正委員会の開催費に充てる。審議の結果、事業計画案ならびに予算案について承認された。

#### 2) 学術部

福田学術副部長

資料に基づき説明があり、事業計画案ならびに予算案について承認された。

#### 3)研究部

山下研究部長

資料に基づき説明があった。予算案について、今年度日本で開催される日韓ワークショップに関する費用30万円を国際シンポジウム特別会計に計上することとなった。また、鍼灸医療推進研究会の発展的解散により引き継いだ研究事業に対する予算500万円を来年度に計上する。予算案においては研究専門委員会費に委託研究費として500万円、公募プロジェクトとして80万(公募)に分けて計上することとなった。審議の結果、事業計画案ならびに予算案について承認された。

#### 4)編集部

坂口編集部長

資料に基づき説明があった。JAMについては年1回の更新だったが、国際シンポの原稿や英語原著など、今後は随時更新する予定であることが合わせて説明された。審議の中で、原著論文の掲載数が減少していることについて話し合われ、論文掲載に関する方針や基準について編集部で検討することとなった。審議の結果、事業計画案ならびに予算案について承認された。

#### 5) 組織部

安藤組織部長

資料に基づき説明があった。学生会員から正会員への切替に関し、入会のメリットと入会手続きについて分かりやすく説明したリーフレットの作成を組織部において検討することとなった。また、事務局から、公益法人への移行に伴って入会案内も新たに作成する必要があるため、これを機に内容を一新してほしいとの要望が出された。審議の結果、事業計画案ならびに予算案について承認された。

#### 7)国際部

国際会議へ出席により国際部長が欠席の為、福村事務局長より資料の説明と報告された。

#### 8) 広報部

清水広報部長

資料に基づき説明があり、事業計画案ならびに予算案について承認された。また、学会Webサイトにおける学術論文検索DBを統一すること、メールマガジンの配信頻度を上げて1回あたりの情報量を減らすこと、学会Webサイト「お知らせ」欄の積極的活用についても併せて承認された。

#### 2. 平成25年度認定委員会事業計画案と予算案

鳥谷部認定事務局長

資料に基づき説明があった。認定制度の見直しを行うセクションとして実務委員会を設置し、安藤文紀先生が委員長に就任したことが併せて説明された。審議の結果、事業計画案ならびに予算案について承認された。

#### 3. 全日本鍼灸学会雑誌投稿規程の改定について

坂口編集部長

資料に基づき説明があった。共著者の定義について、人数の制限はせずに掲載料も徴収しない方向で議論された。カバーレターや利益相反の部分に共著者が研究の中でどの部分を担ったのかを明記させてはどうかとの意見も出され、編集部にて共著者に関する基準を作成することとなった。

また、倫理委員会や利益相反についてなど、研究機関に属さない会員にも分かりやすい説明をHPに掲載して欲しいとの要望が出され、編集部で検討することとなった。審議の結果、事業計画案ならびに予算案について承認された。

#### 4. 平成25年度各支部事業計画案と予算案

安藤組織部長

資料に基づき各支部から事業計画案と予算案が提出された旨、説明があった。

5. 第 64 回学術大会開催地について 福田学術副部長  
第 64 回学術大会を東北支部において開催することが諮られ、承認された。

6. グランドデザイン検討委員会報告 津田検討委員会委員長  
資料に基づき説明があった。当初は平成 25 年度予算に反映させるべく活動を開始したが、議論の中で、今後の方針について抜本的に見直しを行っていくべきだと意見の一致をみたため、活動期間を 1 年間延長したいとの申し出があった。審議の結果、活動期間の延長が承認された。

7. 刺絡について 福田学術副部長  
学術大会において刺絡に関する一般演題発表は取り扱わないことに対し、会員から再考を求める声が上がっていることが報告された。審議の結果、法律的な問題も含むことから、刺絡をどう定義するかが重要であり、刺絡学会に対して意見を求めることとなった。

#### 入会審査

平成 24 年 8 月から平成 24 年 10 月までの間に入会申請のあった者に対して入会審査を行った結果、全員の入会が賛成多数で承認された。

以上、すべての議案について審議の結果、賛成多数で承認された。

以上をもって、平成 24 年度第 3 回理事会の議事を全て終了した。